

○全日本障害馬術大会Ⅱ

2020年度第72回全日本障害馬術大会 PartⅡ中障害D競技で、遠野馬の遠宝18（^ハがガ乗馬クラブ）が第3位に入賞しました。全日本大会初出場ながら、外国産馬を相手に内国産乗用馬として唯一入賞という立派な成績でした。



遠宝18（^ハがガ乗馬クラブ）と鯨岡啓輔選手 2020年12月27日三木ホースランドパーク

○偉大なる母 遠野の宝

表彰式で主催者側の方に「遠宝は“えんぼう”ではなく“トーホー”と読むことを初めて知りました。『遠野の宝』とは良い名前ですね。」と言って頂きました。遠宝18は2014年5月23日遠野小友町・菊池栄喜さんの家で生まれた牝馬。父はマディクシー（ハノーバー）、母は野菊（半血）です。

野菊は昔ながらの遠野馬の血を引く馬で、馬場馬として活躍中のジヴェルニーの母馬とは姉妹です。セリで北海道に渡った後、障害競技で活躍馬を出していたパンサー（ウェストファーレン）の子をお腹に宿



栄喜さんと遠宝18 2015年10月遠野市乗用馬市場



偉大なる母・野菊 2015年10月荒川高原

して遠野に戻り、栄喜さんの家で繁殖牝馬となりました。毎年受胎し、お産も手がかからず、子育て上手で優秀な母馬だった野菊は、馬同士の間でもリーダー的存在でした。産駒には活躍馬も多く、パンサーを父に持つ芦毛の初子は、馬場馬として八王子乗馬倶楽部や東京大学馬術部で20歳を超えるまで息長く活躍。また現在霧島高原乗馬クラブ所属のフリーデンティアモ（父・フリーデンスラート セリ名・トーホー13）は、障害馬として国体などで優勝しています。生涯で18頭の子を産み育てた野菊の18番目にして最後の産駒となったのが遠宝18です。野菊はまさしく「遠野の宝」といえる偉大な牝馬でした。



小友町の東種山で子育て中の野菊 2011年6月

遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ
情報誌

No.51

2021年2月1日